

■企画展に寄せて

安政東海地震における三津村の被害記録

■史料館からのお知らせ

二〇一六年七月

通巻
126号

沼津市明治 史料館通信



諸国大地震大津波実説早引方角附 世直り一覽
嘉永7年(1854)
(当館所蔵)

嘉永7年11月4日に東海地震が、翌5日に東南海・南海地震が連続して発生し、太平洋沿岸を大津波が襲いました。本資料には各地の被害の様子などが記されています。沼津は「人家大崩れ海辺は津波にてあれ多し」、原は「大地震にて人家夥しけが人少々ありし」と記されています。

当時の日本は、「内憂外患」といわれるように、事件・外圧・変事が相次ぎ、また社会不安などの諸状況により大きな変化が予測される時期で、幕府だけでなく、社会全体が混乱と不安そして緊張を高めており、民衆に「世直し」・「世直り」といった気運が高まっていたことが本資料の題名にも表れているといえるでしょう。

企画展に寄せて

安政東海地震における三津村の被害記録

平成二三年（二〇一一）三月一日に発生した東日本大震災から五年を迎えたということ、今年度第一回企画展は「沼津を襲った地震・津波」を開催している。当市でも南海トラフ大地震の発生とそれによる大規模な被害が予想されていることから、これを期に今一度過去の東海地震（安政東海地震）を振り返り、南海トラフ大地震に対する備えを再確認するという狙いである。

本稿では企画展に関連して「安政東海地震」による三津村（現沼津市内浦三津）の地震・津波被害の記録である「大地震大浪書上帳」を紹介する。

「安政東海地震」は嘉永七年（一八五四）一月四日五ツ半過（午前九時頃）に南海トラフの駿河湾内を震源として発生した推定マグニチュード八・四の巨大地震で、地震による被害もさることながら、地震によって発生した津波が西伊豆沿岸部に多大な被害をもたらした。三津村は、駿河湾東部の最奥部にあり、近隣の長浜村・重須村などとともに津波の被害が大きかった。家数は、文政六年（一八二三）で家数一〇〇、明治五年（一八七二）で一三一であり、当時の家数はこの間であろう。

資料は、地震発生から一週間後の一月一日に、百姓代勘七、組頭儀右衛門、名主羽田彦三郎の連名で村内の被害状況の報告として地方御役所に出されたものである。まず初めに各家

の当主の名と被害程度が一軒ずつ八五件が記され、その後に氏神など社寺、高札場などの被害が記されている。

各家の被害の内訳をまとめると以下のとおりである。

居室（隠居を含む） 流失一三軒・浪打上皆潰九軒・皆潰二五軒・皆流四軒・破損三一軒・合計八二軒
土蔵 皆潰八ヶ所・破損二七ヶ所・合計三五ヶ所
物置 流失八ヶ所・皆流五ヶ所・潰一七ヶ所・合計三〇ヶ所

居室については村内一〇〇軒余のうち六割強にあたる居室が地震の、一割強が津波の被害を受け、合わせておよそ八割の家が地震・津波によって何らかの被害を被ったことがわかる。

どの地点でどのような被害があったのかについて、現代の住宅地図のようなものは江戸時代の村ではあまり存在せず、少なくとも三津村では存在が知られていない。加えて先に述べたとおり、本資料に記されているのはほぼすべてが当主であろう者の名のみで姓がわからない。左に掲げた図は、このような状況下で、明治初めに作成されたと推測される土地所有図から該当する家を見つけ、また石井種生氏の助言を得ながら、現代の地図にその家の場所をプロットし、被害の様子を記したものである。水色の範囲が推定津波浸水域である。寺社等も含めて二四か

所をプロットできた。

プロットした結果から、地震動による家屋の倒壊の被害の程度は各家によって様々であるが、立地条件による傾向が見てとれよう。村の中心部、平地が比較的広い地域に立地していた丈助、友七、助七の居室は津波によって流失してしまったが、一方で中心部をはさんだ南北の地区の山を後背にした家々は、浸水したにもかかわらず流失していない家が散見される。元七の家は「居室五分潰 土蔵皆潰 隠居流失」となっているが、元七の子孫である石井氏の談では「母屋の1階の鴨居まで水に浸かった」という伝承が残っているようだ。山を背にして母屋があり、その海側に隠居があったそうだが、同じ敷地内で津波を受けても、母屋は流失を免れ、隠居は流失という結果になっている。

もう一点注目したいのは地震・津波による死者が記録されていない点である。現沼津市域の沿岸部の漁村地帯（静浦・内浦・西浦地区の一六か村）において安政東海地震の津波による死者は概して多くはない。旧戸田村を除けば、地震・津波合わせて一三人、多い村で四人、村ごとの平均にすれば一人強といったところである。発災の時刻から推測すると、漁村ゆえ、恐らく成人男性は村内にそれほどいたわけではなく、女性、子どもが数多くいたであろう状況下での、現代の言葉でいえば避難行動の的確さがあったことが推測される。

企画展開催中

「沼津を襲った地震・津波」 7月2日(土)～8月28日(日)

東日本大震災から5年余りが過ぎました。災害発生の直後は人々の防災への意識は非常に高まりますが、時間の経過とともに徐々に低くなってしまいます。こうした中、本年4月に熊本で大地震による甚大な被害が発生し、改めて自然災害の怖さを思い知らされました。今回の企画展では東海地震のモデルとされている、嘉永7年の「安政東海地震」を歴史資料で紹介するとともに、1/2,500スケールの市全域模型に県の出した第4次地震被害想定を反映して展示します。



フロアレクチャー

8月13日(土)13時30分から

講師 常葉大学 社会環境学部長
池田 浩敬 教授

沼津市の南海トラフ地震に備えた津波避難計画の検討等にご協力いただいている池田教授に、展示室で過去の事象と現在の状況についてお話をさせていただきます。プロの知見をあなたの暮らしに役立ててください。

申し込み・参加料は不要(要観覧料)

第10回 そろくまつり 報告

おかげさまで
今年も大盛況でした!

開会式



↑開会式恒例のくす玉割り。垂れ幕の文字も正面をむいて、裏方はホッとしました。



金岡マンドリンクラブの演奏



江原素六学習作品展
(4月16日～5月15日)

今年は金岡・沢田・門池・開北の4小学校の作品を展示しました。



手作りペーパーサート

江原学習発表会



江原邸がステージに



昔のおそびコーナー
竹馬



もちつき

めったにできない貴重体験!

みこし担ぎ



劇あり紙芝居ありの楽しく、熱の入ったステージに、大きな拍手がおきました。



ふさようじ作り

江原先生が子どもの頃内職で作っていたふさようじ(今の歯ブラシ)を作るコーナー

5月15日(日)10時～13時

【共催：公益社団法人江原素六先生顕彰会】

夏のイベント

参加者募集中

7月31日(日)までに
お電話(055-923-3335)または
直接来館のうえお申込みください。

●戦時中の暮らしを体験しよう●

戦時中の話を体験者から聞き、その後「すいとん」を作って食べます。近隣の戦争史跡の見学もします。

日 時：8月3日(水) 10:00～15:00
対 象：市内の小学4・5・6年生
定 員：30名(先着順)
参加費：一人24円(保険料)

●平和を考える戦争史跡めぐり●

マイクロバスで市内にある戦争史跡を見学します。

日 時：8月5日(金)・8月7日(日)
9:00～16:00
対 象：市内の小中学生とその保護者
定 員：いずれも23名
参加費：一人24円(保険料)

●高校生のための一日学芸員体験講座●

「学芸員」についての講義と館内施設や展示の見学、資料を使った実技などを行います。

日 時：8月4日(木) 10:00～15:00
対 象：市内に在住もしくは通学する高校生
定 員：10名
参加費：無料

沼津市明治史料館通信

第126号

平成28年7月25日

編集・発行 沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1
TEL055-923-3335
FAX055-925-3018

印刷
みどり美術印刷株式会社